

さいが い じ ょう えん ご し ゃ 災害時要援護者にやさしいまちづくりを

突然の災害に見舞われたとき、大きな被害を受けやすいのは、高齢者や子ども、障がい者、傷病者、外国人などのなんらかの手助けが必要な方（災害時要援護者）です。吹田市では、これらの方を、地域と連携して支援する共助の仕組みづくりを進めています。こうした災害時要援護者を地震や火災から守るために、地域で協力し合いながら支援していきましょう。

災害時要援護者の身になって 防災環境の点検を

放置自転車などの障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、災害時要援護者に対応した環境づくりをしましょう。



避難するときはしっかり誘導する

ひとりの災害時要援護者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な救援体制を決めておきましょう。隣近所で助け合いながら避難するようにしてください。



困ったときこそ温かい気持ちで

非常時にこそ、不安な状況に置かれている人の立場に立ち、支援する心構えを。困っている人や災害時要援護者に対し、温かいおもいやりの心で接しましょう。



日ごろから積極的な コミュニケーションを

災害時の支援活動をスムーズにするためには、災害時要援護者とのコミュニケーションを日ごろからはかっておくことが大切です。



誘導する際のポイント

●高齢者や傷病者

- 複数の人で対応します。
- 緊急のときはおぶって避難します。



●外国人

- 身ぶり手ぶりで話しかけ、孤立させないように。



●耳が不自由な人

- 口を大きく動かし、はっきりと話しましょう。
- 身ぶりや筆談などで正確な情報を伝えましょう。



●目の不自由な人

- つえを持つ手と反対側のひじのあたりに軽く触れるか、腕や肩をかして半歩くらい前をゆっくり進みましょう。
- 階段などの障害物を説明しながら進みましょう。

●車いすを利用している人

- 階段では2人以上で援助を。上りは前向き、下りは後ろ向きで移動します。
- 救援者が1人の場合はおんぶひもなどを利用し、おぶって避難を。



傷病者の運び方、注意点

●抱えて移動

一人は傷病者を背中から抱え、もう一人は傷病者の足を交差させて持ち、同時に持ち上げ足の方から移動する。



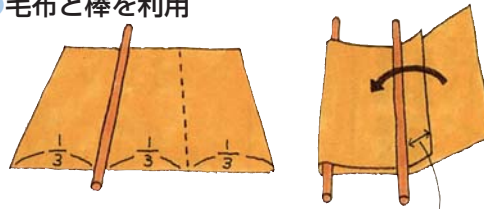
●数人で素手で移動

からだの下に手を差し入れ、できるだけ水平に上げ抱え込む。



●簡易タンカの作り方

●毛布と棒を利用



●上着と棒を利用



注意：使用する前にタンカの点検をすること。